取扱説明書

audio-technica

ポータブルマルチミキサー

AT-PMX5P

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの説明書を必ずお読みのうえ、
正しくご使用ください。
また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に
保管しておいてください。

別売：単3形乾電池×4

マイクロホンやオーディオなどの音声信号をミキシングして出力するマイク/ラインミキサーです。

特長

- コンパクトながらマイク/ライン4系統とステレオライン1系統の計５系統のミキシングが可能
- ピン→φ6.3への変換プラグが2個付属。ステレオピン入力は計２系統まで対応
- ステレオミニジャックはプラグインパワー対応マイクロホン専用入力
- マイク/ライン4系統にはトリムを装備。マイクロホンからCD/MDプレーヤーまで入力調整が可能
- パンポット装備でL/R間の定位を自由に設定
- 出力はステレオライン（ピンジャック）とヘッドホン（φ3.5mmステレオミニジャック）の2系統
- 使う場所を選ばないACアダプター／電池の2電源対応

＊CH1〜CH4 INPUT端子にマイクロホンを接続する場合、ダイナミックマイクロホンまたは電源内蔵のマイクロホンをご使用ください。

アフターサービスについて
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。
お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先（電話受付 / 平日9：00〜17：30）
商品のお問い合わせや故障・修理のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口及びホームページの「サポート」までお願いします。
●相談窓口（お問い合わせ）　0120-773-417
（携帯電話・PHSなどのご利用は　03-6746-0211）
FAX：042-739-9120　Eメール：support@audio-technica.co.jp
●サービスセンター（故障・修理）　0120-887-416
（携帯電話・PHSなどのご利用は　03-6746-0212）
FAX：042-739-9120　Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp

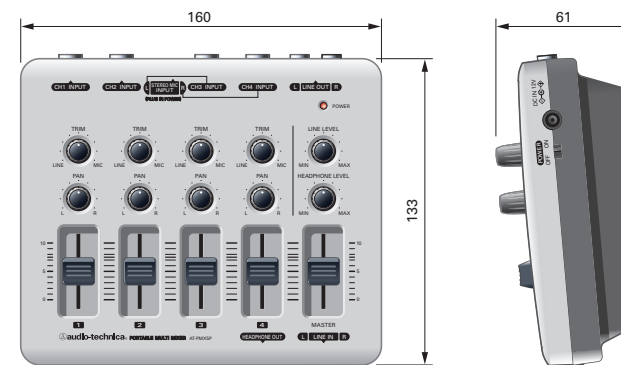
株式会社オーディオテクニカ
〒194-8666　東京都町田市成瀬2206
http://www.audio-technica.co.jp

222500230B

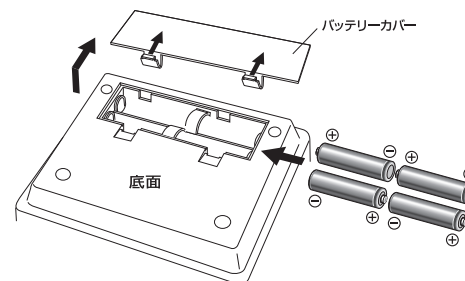
テクニカルデータ

定格入力	：＋10dBV（TRIM＝MIN）、−50dBV（TRIM＝MAX）
定格出力	：−10dBV
周波数特性	：20〜20,000Hz（TRIM＝MIN）、50〜20,000Hz（TRIM＝MAX）
最大許容入力	：＋13dBV（TRIM＝MIN）
電源	：DC12V（付属のACアダプター使用、日本国内専用）、または単3形乾電池×4本
消費電流	：50mA（ヘッドホン 1mW 出力時）
電池持続時間	：約60時間（アルカリ乾電池使用時）
入力端子	：φ6.3mm標準ジャック×4、φ3.5mmステレオミニジャック×1、ピンジャック×2
出力端子	：ピンジャック×2、φ3.5mmステレオミニジャック×1
外形寸法	：H48×W160×D133mm（突起部除く）
質量	：約360g（本体のみ）

●付属品　ACアダプター（**AD1203JS**）、ピンプラグ→標準変換プラグ×2
（改良などのため予告なく変更することがあります。）

外形寸法図（単位：mm）

電池の入れかた

1. 電源を**オフ**にする。
2. バッテリーカバーの2つのツメを矢印の方向に引いた後、持ち上げて開く。
3. 単3形乾電池×4本を極性に合わせて入れる。
4. バッテリーカバーを閉じる。

バッテリーカバー
底面

安全上の注意

本製品を安全にご使用いただくための注意事項です。使い方を誤ると事故が起こることがあります。
ご使用前に必ずお読みください。

⚠警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。	⚠注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本体について

⚠警告

●付属のACアダプター以外使わない
故障、不具合の原因になります。
●異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、すぐにコンセントから抜き、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに修理を依頼してください。
●分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
●強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります
●濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
●水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
●本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない
感電、故障や火災の原因になります。
●布などでおおわない
過熱による火災やけがの原因になります。
●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。

⚠注意

●不安定な場所に設置しない
転倒などによりけがや故障の原因になります。
●持ち運び用ベルトを持って振り回さない
ベルトが外れてけがや故障の原因になります。
●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。
●火気に近づけない
変形、故障の原因になります。
●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。

ACアダプターについて

⚠警告

●AC100V以外の電源には使わない(日本国内専用)
過熱による火災やけがの原因になります。
●本製品以外には使用しない
過熱による火災やけがの原因になります。
●異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いやコードなどの発熱、損傷などがあったら、すぐにコンセントから抜き、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに修理を依頼してください。
●コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災やけがの原因になります。
●コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災やけがの原因になります。
●コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
●コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
●分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
●強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
●濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
●布などでおおわない
過熱による火災やけがの原因になります。
●プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災やけがの原因になります。
●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。

⚠注意

●長時間使用しないときは、コンセントから抜く
省エネルギーにご配慮ください。
●足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
●通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

電池について

指定電池	単3形乾電池×4本

※指定電池以外は使用しないでください。

⚠警告

●幼児の手の届く所に置かない
電池を飲み込んだ場合はすぐに医師の診察を受けてください。窒息の恐れがあります。
●以下の場所に置かない
・火の近く
・炎天下の車内
・硬貨やカギなど金属製の物と一緒
故障、不具合の原因になります。
●分解や改造、ハンダ付けはしない
感電、故障や火災の原因になります。
●極性通りに入れる
極性を間違えると、故障の原因になります。
●外装チューブがはがれた電池は使用しない
故障や火災の原因になります。
●乾電池は充電しない
感電、故障や火災の原因になります。
●火の中に投入しない
破裂や事故の原因になります。
●メーカー、種類の違う電池や、新品と使いかけの電池を一緒に使用しない
発熱や、液漏れによる故障の原因になります。
●液漏れした電池はすぐに取り出す、液は素手でさわらない
・幼児がなめた場合はすぐに水道水等のきれいな水で十分にうがいをし、すぐに医師の診察を受けてください。
・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合はすぐに医師の診察を受けてください。
・目に入ったときは目をこすらず、すぐに水道水等のきれいな水で十分に洗い、すぐに医師の診察を受けてください。
●液漏れしたらサービスセンターまで問い合わせる
液を拭き取っても基板に液が残って故障の原因になる場合があります。

⚠注意

●指定の電池以外使用しない
故障の原因になります。
●長期間使用しない場合は電池を取り出す
液漏れによる故障の原因になります。
●使用済みの電池は地方自治体の指定する方法で処分する
環境保全に配慮してください。

使用上の注意

●本製品を使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
●ケーブルの抜き差しは、本製品の電源を切ってから行なってください。
●本製品のCH1～CH4 INPUT端子にマイクロホンを接続する場合、ダイナミックマイクロホンまたは電源内蔵のマイクロホンをご使用ください。
●本製品のSTEREO MIC INPUT端子にマイクロホンを接続する場合、プラグインパワー対応のマイクロホンをご使用ください。
●本製品のSTEREO MIC INPUT端子に、ポータブルプレーヤーやプラグインパワー非対応のマイクロホンは接続しないでください。接続機器の故障の原因になる場合があります。
●不要なノイズを避けるため、使用しないCH1～CH4のTRIMはLINEの位置に、レベルフェーダーは0の位置に、LINE LEVEL調整つまみはMINの位置にしてください。

各部の名称と機能

CH1～4 INPUT 端子
ライン/マイクロホンを接続するφ6.3mmモノラル標準ジャックです。
付属のピンプラグ→標準変換プラグを使ってピンプラグ入力もできます。

LINE OUT 端子
ミキシングされた音声がライン出力されます。録音用機器のライン入力へピンプラグケーブルで接続します。

STEREO MIC INPUT 端子
プラグインパワー対応ステレオマイクロホンを接続します。形状はφ3.5mmステレオミニジャックです。

＊STEREO MIC INPUT端子は、CH3/CH4 入力と兼用しており、どちらか一方がお使いになれます。両方とも接続されている場合は、CH3/CH4 入力端子が優先となります。

＊ポータブルプレーヤーやプラグインパワー非対応のステレオマイクロホンは接続しないでください。
接続機器の故障の原因となる場合があります。

TRIM
マイクロホンなどの微少音声を入力する場合はMIC側へ、ビデオ音声などのラインレベルの音声を入力する場合はLINE側へ回します。
音が歪まない位置にセットします。

PAN
各チャンネルに入力された音声をL、R間の自由な位置へ定位させます。
L側へ回すと音像が左へ、R側へ回すと右へ移動します。

CH1～4レベルフェーダー
CH1～4入力端子に入力された音量を調整します。

＊フェーダーを0側に下げると音量は小さくなり、10側に上げると大きくなります。

MASTERレベルフェーダー
ミキシングされた全体の音量を調整します。

バッテリーホルダー（底面）
単3形乾電池を4本入れます。

POWERインジケーター
POWERスイッチをオンにすると点灯します。

LINE LEVEL 調整つまみ
LINE INに入力されたステレオライン音声の音量を調整します。

HEADPHONE LEVEL 調整つまみ
ヘッドホンのモニター音量を調整します。

＊つまみを左に回すと音量は小さくなり、右に回すと大きくなります。

LINE IN 端子
ステレオライン音声を入力します。
形状はピンジャックです。

HEADPHONE OUT 端子
モニター用ヘッドホンのφ3.5mmステレオミニジャックです。
ミキシングされた音声をモニターできます。

DC入力ジャック
付属のACアダプター（**AD1203JS**）を接続します。
付属のACアダプター以外は使用しないでください。

POWERスイッチ
オンにすると電源が入り、オフにすると切れます。

接続する前に

＊各機器の電源を必ず切ってください。
＊接続の前に本製品と接続機器の音量調整つまみはすべて最小にしてください。
＊各機器の左（LEFT）と右（RIGHT）を間違えないように、端子とプラグを合わせて接続してください。
＊接続する機器の取扱説明書をあわせてお読みください。

接続のしかた

1. 接続機器のライン出力またはマイクロホンを、**CH1～4 INPUT端子**（φ6.3mmモノラル標準）に接続します。

2. プラグインパワー対応ステレオマイクロホンを、**STEREO MIC INPUT端子**（φ3.5mmステレオミニ）に接続します。

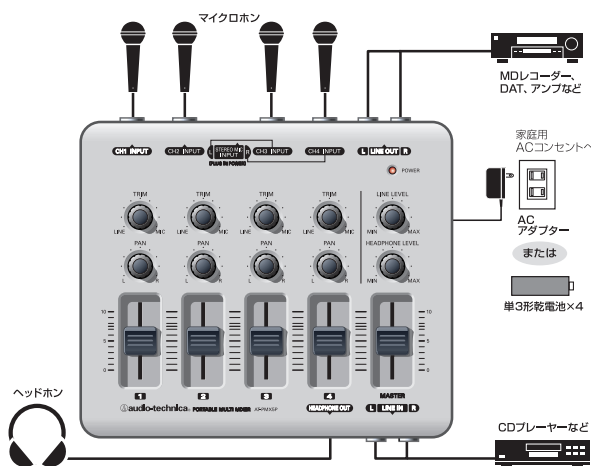
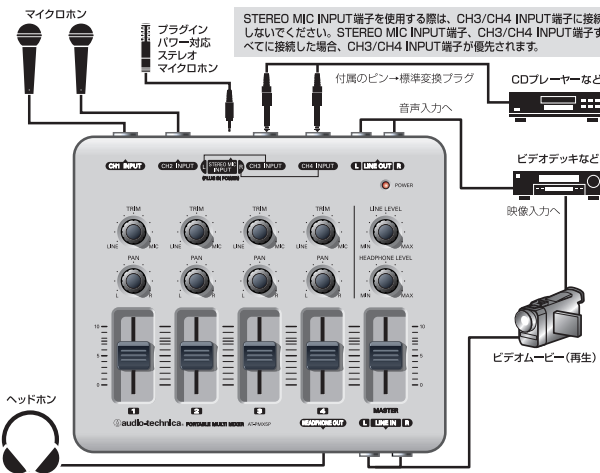
＊**STEREO MIC INPUT端子**を使用する際は、**CH3/CH4 INPUT端子**に接続しないでください。
STEREO MIC INPUT端子、CH3/CH4 INPUT端子すべてに接続した場合、**CH3/CH4 INPUT端子**が優先されます。

＊**STEREO MIC INPUT端子**にポータブルプレーヤーやプラグインパワー未対応のマイクロホンは接続しないでください。
接続機器の故障の原因となる場合があります。

3. CDプレーヤーやビデオムービーなどのステレオライン出力を、**LINE IN端子**（ピンジャック）または**CH3/CH4 INPUT端子**（φ6.3mmモノラル標準）へ接続します。

4. **LINE OUT端子**（ピンジャック）を録音用機器やアンプなどのライン入力に接続します。

5. 本製品にACアダプターを接続し、家庭用コンセント（AC100V）に差し込みます。乾電池をご使用の場合は、乾電池を入れてください。

＊本製品にACアダプターを接続すると、乾電池が入っていても自動的にACアダプターに切り換わります。

使いかた

＊接続する機器の取扱説明書をあわせてお読みください。

1. 本製品と接続機器の電源を入れます。

入力端子に接続されている機器の電源を入れます。
次に、各チャンネルのTRIMをLINEの位置に、レベル調整ツマミをMINの位置に、またCH1～4レベルフェーダーとMASTERレベルフェーダーを0の位置（最も、下の状態）にし、ヘッドホンを接続している場合は耳から外してから本製品のPOWERスイッチを入れます。
最後にLINE OUT端子に接続されている機器の電源を入れます。

2. 各チャンネルのTRIMを調整します。

入力側の機器から音声を入力しながらMASTERレベルフェーダーを7～8の位置に上げ、次に調整するチャンネルのフェーダーを徐々に7～8まで上げていきます。
（必要であれば出力側の機器を調整して本製品からの出力音声を聞けるようにしておきます。ヘッドホンを使用する場合はHEADPHONE LEVEL 調整つまみを少し右に回しておきます。）
その後、TRIMを徐々に左に回していき適正なレベルに調整します。音が歪む場合はTRIMをLINE側に回して下げてください。

3. 入力された音声をL、R間の適当な位置へ定位させます。

各チャンネルのPANを回して調整してください。
L側へ回すと音像が左へ、R側へ回すと音像が右へ移動します。

＊STEREO MIC INPUT端子に入力している場合、入力されたステレオ音声のL信号がCH3、R信号がCH4に振り分けられます。CH3のPANをL側に、CH4のPANをR側に、それぞれ最大に回してご使用ください。

4. 各チャンネル間のレベルバランスを調整します。

各チャンネルのレベルフェーダーを上げ下げして調整します。

※不要なノイズを避けるため、使用しないチャンネルのTRIMはLINEの位置に、レベルフェーダーは0の位置に、LINE LEVEL調整つまみはMINの位置にしてご使用ください。